



## 意気な三原っ子育成環境事業

# 「三原のおやじ」と子ども達の わんぱくふれあい体験ツアー

10月22日

in佐木島



(社)三原青年会議所 次世代育成委員会は、家庭・学校・地域の共育環境が重要と考える中で「おやじの会」に着目し、現在三原にある「おやじの会」の推進並びに新たなる設立へのサポートを行なってきました。その一環として、各々の地域の「おやじ」達と「子ども」達が、海や山といった自然溢れる佐木島を舞台に、様々な体験や交流を通じて人と人とのふれあいの大切さや、自分達の生れ育った「三原」の再発見をしていただき、参加された皆さんに想い出と郷土愛を育んでいただこうと、このツアーを企画、開催いたしました。



当初の予想を上回る総勢400名超の参加者を乗せたフェリーがこのツアーの舞台である佐木島へと出港！



秋とは思えないほど暑く感じる日差しの下、しまなみの島々が広がる海沿いの道を語り合いながら30分ほどかけて「さぎしまセミナーハウス」に向かいました。

## みたかきいたか

◆「都会では 自殺する若者がふえて いる 今朝来た新聞の片隅に書いて だけでも問題は今日の雨 傘がない」井上陽水氏の「傘がない」の冒頭の一節である。この一節を彷彿させる事件が多発している。しかも若者と言っても小学生である。何がこの問題を引き起こしているのか考えてみた。

◆まず、自殺した子どもに目を向けた時、人間力ともいべき「生きる力」の欠如を感じる。一方、いじめる側の子どもにおいては孤立することの恐怖を抱えつつ、かといって心通い合う友を得ることも出来ない、そんな姿が浮かんでくる。両者の間に大差を感じることは出来ない。メディアを通しては学校、教育委員会の責任が問われているが、果たしてそれだけの問題であろうか。

◆元来、農耕民族であった日本人は和を重んじ、個人よりも他に対する思いやりを大切にし、社会の一員としての責任を重んじて来た。社会の自然的且つ基本的な社会集団としての家族のあり方についても明確な方針が立てられていたような気がする。戦後、社会においても家庭においても個人の自由のみが尊重され、義務が軽んじられて来た感が否めない。

◆現在、憲法並びに教育基本法の改正が議論されているが、国家としての決意を明確にし、国民一人ひとりがこの国を愛し、この国を創ってゆく志を立てるよう、明確な方針を打ち出さなければならない。古き良き時代の記憶の残っている今を逃してしまうとこの国は崩壊してしまうであろう。傘がないことを問題にしている時ではない。